

## 市庁舎整備に関する市民説明会会議録

|                 |                                       |       |  |
|-----------------|---------------------------------------|-------|--|
| 会議年月日           | 平成25年2月2日（土）                          |       |  |
| 開 会             | 午後2時40分                               | 閉 会   | 午後4時40分                                |
| 場 所             | 国府町公民館                                |       |  |
| 説 明 員<br>(8名)   | 伊藤 幾子                                 | 石田憲太郎 | 金谷 洋治 椋田 昇一<br>有松 数紀 上紙 光春 上田 孝春 森本 正行 |
| 説 明 員 外<br>議 員  | 房安 光 (副議長)                            | 太田 縁  | 中村 晴通 中西 照典<br>谷口 秀夫 高見 則夫 両川 洋々 入江 順子 |
| 傍 聴 者           | 152名                                  |       |  |
| 本日の会議に<br>付した事件 | (1) 市庁舎整備に関する取り組みの経過<br>(2) 質疑応答・意見要望 |       |  |

◆森本議員 御発言をいただく方の挙手をお願いいたします。

それでは、こちら、右側の方の方から順に御発言をいただきたいと思います。

○質問者A Aです。私は住民投票の結果を尊重した、あくまでも市民の声を入れた耐震改修案をとる立場で質問させていただきます。

先ほどの、皆さんの手元にある市庁舎耐震改修などに関する調査特別委員会報告書というものが出てますけども、その表側の真ん中辺に、この検証の調査業務を日本設計に依頼し、一部議員の反対があったが、賛成多数で議決し調査を委託したというのがありまして、この一部議員の反対というところに、私、この住民投票にかけた市庁舎整備問題の原点、あるいは本質があるんじゃないかなと思って、この反対した理由と、その反対について特別委員会でどういう議論がなされたのか、反対した議員さん本人にその理由をまず聞かせていただきたいと思います。そして、その理由をこの会場にいる皆様と共通認識のもとで今後の議論を図ってもらえたらと思います。よろしくをお願いします。

◆森本議員 第1部でも申し上げましたけど、本日ここと気高町の方でもう1会場やっておりまして、特別委員会の委員も、全員ではなく、二手に分かれての出席となっております。御質問がございました内容について、当該の議員が出席かどうか確認はしておりませんが、今御質問がありましたことにつきまして、議員の側から、伊藤議員の方から。

◆伊藤議員 それでは、失礼します。

委員会報告の中ほどに書いてある、日本設計に依頼することを一部の議員の反対がありましたという部分についての御質問でした。私はこの当該委員に当たります。私はこれについて反対をしましたが、その理由はですね、特別委員会が開かれてから、住民投票が終わった後は耐震改修に当たっての仕事は執行部がすべきだという立場でずっと主張してまいりましたので、もちろん検証するということが議会がすることではないと、それで結果的には議会が検証するということにはなったんですけども、それについても理由が、なぜ議会が検証作業をしないといけないうのかという理由が明らかにされていないということで私は反対をいたしました。答えになるのでしょうか。

◆森本議員 伊藤議員の方から自分がその発言をしたということを名乗って答弁をいただきました。答弁の内容でよろしゅうございましょうか。

それでは、右の列、お2人目の方。

○質問者B 失礼いたします。名乗れとどこの会場でもおっしゃるけど、本来私はそのことについては疑義を持っております。しかしきょうは発言をさせてもらいたいから、おっしゃるとおり名乗らせていただきます。Bというおじいさんでございます。現在、高齢者の真ただ中にありまして、やがてよみの国へ参る所存でございます。したがって、本日は本当に会場の方々にもおいでの議員さんにも鳥取市長にも遺言をさせていただこうと思って参っております。よろしくお願ひします。私は今回のこの騒動は余りのふできな、ざまのないことだと心から怒っております。家族や地域に恥をかくようなことを言いたくありません。自信を持って遺言させてください。耳の穴かっぽじって聞いてくださいよ。特に地元の有松さん、お願ひします。次の委員長さんです。

じゃあ申し上げます。したがって、3分以内ですから、多分そうだろうと思って遺言を箇条書きにしておりますから、実に肉がつかませんが、それをやむなく棒読みをいたします。しっかりと記憶をしておいてください。

あの住民投票は何だったのでしょうか。今回一連の議会の行動は市議会史上に大きな汚点を残すと思います。直ちに改めて善後策を講じていただきたい。遺言1。

2つ目。投票結果が出ておりますのに、その結果が出てから検証とは何事でございます。(拍手) この一言に尽きると思うんです。投票させといて、その結果を検討したるとは何事ですか。赤子でもわかりますよ。遺言、今2つ目。

3つ目。検証という名のもとに、実現不可能とおっしゃいました。マスコミも取り上げました。市民の大半は、何ちゅうことだいと、なら、おら、だまされたかい。

(「そうだ。」と叫ぶ者あり)

○質問者B こうだと思いますよ、悲しいかな。しかし今、市民さんは目覚めつつありますよ。だまされません。よろしいですか。そこで続きの遺言です、これ。実施不可能とされましたが、次の項目に照らし、その理由を、実施不可能とした理由を市民に明らかにすべきであろうと思ひ

ます。遺言3です。

遺言は3つですから、今3つ目の遺言をした理由を5つ申し上げます。多分、今1分半ぐらいだと思う。

その理由の1つ。検証であるなら、日本設計と山本設計の双方を本気でもっともっと対峙させて、両方お互いに対峙させて、もう今さっき書いたんだけね、なかなか読みにくいですがな。もっともっと本気で対峙させるべきである。それを市民の前で納得するまでやるべきであると遺言させていただきます。

(「そうだ、そうだ」と叫ぶ者あり)

**○質問者B** 市民の前。(拍手) 議会の中ではだめですよ。やめてください。

次、2つ目、理由の2つ目はですね、暗うて、おじいさんだけん読みにくいな。よって、そうだ。昨日か一昨日の8名さんですか、専門家委員会、あれ何ですか。あれ何ですか、本当に。あ衆が最高ですか。市民はどうなんですか。あの投票結果、どうなんですか。直ちにやめてもらってください。もしくは、やめさせれんなら、中断をしてください。これが市民の声です。

次に、市議会の有松さんが委員長に就任されたようですが、市議会のまた検討委員会、きょうだって書いてありましたね、新聞に。やられたんかな、これからかな。直ちに中断をして市民の声を待つべきであると遺言させていただきます。有松さん、きょうなさるんかな、なさったんかな、参考までに。まだこれから。いやいや、答弁要らん。根本は、司会者さん、答弁要らんけん、わしはね。次の方の発言をさせてあげてください。

あと2つです。

(発言する者あり)

**○質問者B** いや、3分はまだ大丈夫だと思うで。

3つ目。日本設計は当初の100億、後に75億を設計した会社さんでございます。このことは市民さんは知る人は少のうございます。あの100億を設計した会社、日本設計。なぜその会社一社に検討させたんですか。6社を指名したけど、ちやなことはわしは承知しております。十分。そんな100億と75億、あの設計して問題になった、その日本設計、何が検証ですか。あと、わかるでしょう。ばかな市民じゃありませんよ。ええかげんにしなせえ。

4つ目。日本設計は公(おおやけ)単価、あの公の単価、設計基準でこたこたこたこた足し算ただけですね。教科書にある数字、足し算してある。日本設計さんは公の設計単価、山本設計は、わしは山本さんに味方すりゃしませんぞ。ロゴスの二男だか三男だかちやなんことをで、そりゃわしや一緒に酒飲んだこともあるけど、一つも味方してません、公平に。山本設計事務所は実勢単価で積んでおる。このことは皆さんよく御存じだと思う。それを市民の前に明らかにして、本当にどっちがどうなのか。

最後に地方自治法に基づく発言をさせていただきます。議員さんは御承知。この中にもその経験のある方いらっしゃる。地方自治法の規定によって、入札は、わしも遠ざかったけど、一番低かったら失格条項がね……。済みません、これで終わりますけえな、こらえてな。失格条項は、今、

地方自治法は、入札が設計の5分の4または3分の2以上、低かったら失格しますね。日本設計さんのこの40何億をこれに基づいて入札して、おれがやったと言った人があったら山本設計と同じ数字になるじゃないですか。何ぼも違やしません。そんなことを承知するあなた方が何で実施不可能なんですか。改めてください。

以上が私の遺言です。これは説明会にならんということも遺言させてください。こんなことで何が説明会ですか。まちづくり協議会の61に全部おろいて、それぞれの61のまちづくり協議会から声を吸い上げなんせえな。それが本当の市民の声です。

以上、ありがとうございました。（拍手）

◆**森本議員** 質問者から答弁は求めないという発言があった後でございますけども、議会側として、先ほど伊藤議員が代表して説明しました内容、説明ができてない部分と今の御質問に対して関連する部分で説明を含めて御発言のある議員はいらっしゃいますか。

上田議員。

◆**上田議員** 済みません。私の方でできる範囲内の説明をさせていただきたいというふうに思います。

厳しい御意見というか指摘だというふうにとらえておりますけれども、日本設計と山本さんと対峙して検討させてはという御意見ございましたけれども、これは以前特別委員会で、山本さんの考え方等々については特別委員会として十分お聞きをしました。そういったことを踏まえながら日本設計の考え方等々について聞かせていただいたというのが、特別委員会の……

（発言する者あり）

◆**上田議員** はい、そうです。それで、山本さんの検証に出した一つの考え方としては、市民の皆さんに1号案、2号案を比較検討用を示して住民投票を行いました。その結果として市民は、先ほど伊藤さんの方からも説明があったように、60何%の結果で現本庁舎の耐震改修・一部増築を市民が選択をされたわけですけれども、議会として検証に出したのは、やはり本来ならそれで執行部に投げれば、渡せばよかったですけれども、委員会の中で、やはり議会が住民投票にかけた責任として20億に対するしっかりした考え方を示さないけんじゃないかという考え方の中で日本設計に検証をお願いいたしました。

それで、なぜ日本設計なのかという御意見もございました。本来なら日本でそれなりの見識のある業者に検証をお願いしようという形で、10社、一応委員会としては設計会社をピックアップしてお願いをしたわけですけれども、結果的には日本設計のみになったわけですけれども、ほかのそのお願いをしたところはやはり忙しいという関係や日にちがないというふうな関係であとの9社が検証に応じていただかなくて、結果的には日本設計のみになったということの一つ御理解いただきたいというふうに思います。これが最終的には1号案を設計した日本設計でという形で、ここでまた市民の皆さんからは御意見等々があることも十分承知をしております。そういった形で日本設計で検証をお願いしたということが特別委員会の一つの経緯でございます。

それから、ちょっとあちこち飛びますけれども、日本設計の積算の考え方が国の新営単価だっ

たという形でお話がありました。それから山本さんは実勢単価で積算をしたというふうな一つの意見が出ておりました。そこで、わかりやすく言うと、結局日本設計の一つの積算の数字というのは、わかりやすく皆さんに申し上げますと、一つの品物でいえばこれが定価であって、定価を示したと、そして山本さんの方は実際の販売価格というか、お客さんが買う単価で示した。そこにどうしても単価の違いが出てくる。75億という、あ、33億何ぼと、それから20億8,000万という一つの数字に結果が出ると、それが一つの売り値と定価との違いだというふうな一つの形で御説明をさせていただきたいというふうに思います。

それから、もう一つは専門委員会の話が出ておりました。今回新しく出た専門委員会、なぜそういった専門委員会をつくるんかというふうな一つの考え方で意見が出たわけですが、これは特別委員会として設置したわけではなくして、市長の方がこれから先、委員長報告を受けて、これから先、市庁舎整備の一つの考え方を示していく上でそういった専門委員会の意見を聞こうじゃないかという形で専門委員会を設置したということでございます。このことについてはやはり私がどうのこうのという、今ここで申し上げることは非常にできないわけですが、議会としてこの推移は見ていかなければいけないかなという一つの基本的な考え方を持っております。

それから、今回の特別委員会の、新たな特別委員会の話も出ておりました。それで、一応12月の最終の議会のときに第1回の庁舎特別委員会が皆さんに委員長報告として示さされてるように、議会が示した住民投票の結果を踏まえての20億に対する日本設計の検証等々についてした結果を委員長報告として示しております。これから先、新たな特別委員会をつくったわけですが、市の執行部の方がこれから先どういった形で市庁舎整備を提案してくるかわかりませんが、議会は議会としての一つの考え方のもとでこれから先、市庁舎整備についてかかわっていかねば責任があるというふうな考え方の中で、新たにこの1月の16日に特別委員会を設置しております。この特別委員会では、やはり委員長報告にも示しておるように、住民投票の結果をしっかりと踏まえた中で、これから先、市庁舎整備をどうよりいいものを整備をしていくかという基本的な考え方に立って、議会は議会としての一つの住民投票の結果を踏まえての市庁舎整備を考えて、検討していこうという形で新たに特別委員会を設置しております。この特別委員会を設置するときにもいろいろ意見はあったわけですが、最終的には、先ほど申し上げましたように、議会として市庁舎整備の住民投票をした責任があるわけですので、このことをしっかりと踏まえた中でよりよい市庁舎整備を進めていくために、議会としての責任を果たすためにも特別委員会をつくって議論していこうというふうな形で特別委員会が設置されたというふうに思っております。

それから、一つは実現不可能という一つの言葉も出ております。このことについてはいろいろ議論はあるわけですが、実現不可能という一つのことになったのは、住民投票で2号案を示しました。これが原案とします。その原案で日本設計に20億に対する検証をしていこうという一つの考え方で日本設計に検証をお願いしたわけですが、先ほど報告の中にもありましたように、日本設計が原案のままでは検証ができないというふうな一つの考え方があったわけす

ので、じゃあそしたらどういった形で日本設計が検証できるかというふうな形で特別委員会としても議論して、一部変更したわけです。3点、先ほども報告の中にありましたように、3点変更しました。1つは、地下室の部分の免震構造、柱頭免震でやるというふうな形で原案はなっておったわけですが、柱頭免震のままではできないという形で、それを、柱頭免震を変更して全体を基礎免震という形で検証を行ったということ。それから2点は、現在の法的な関係では、内装面に対して建築基準法にひっかかるという形でその変更をするという形。さらには半地下の駐車場が、駐車場150台の関係です。駐車場150台の関係で、その関係が、新築部分、増築部分ですね、ここの駐車場を当初は100台という形で予定をしておったわけですが、この一部増築の部分をその100台という形で示しておったときには、制震構造、増築部分を制震構造で設計をして、そこで100台という形にしておったわけですが、増築部分を……

(「長いですね」と呼ぶ者あり)

◆**上田議員** 済みません。

(発言する者あり)

◆**上田議員** それで、増築部分を免震という形にした関係で100台がとれなくなって変更になったと、こういったところが原案どおりでは不可能だという形で一部変更して日本設計に検証をお願いしたという……

(発言する者あり)

◆**上田議員** そういうことで、ちょっと質問の漏れがあったらまた後で……

(発言する者あり)

◆**上田議員** 質問の漏れがあったら後でまた答えさせていただきたいというふうに思いますけれども、先ほどBさんから出た何点かについては以上のような形で答弁をさせていただきたいというふうに思います。

◆**森本議員** 先ほど質問者の方からお名前を上げての発言もありました。そのことについて、有松議員の方から何か御発言は。

(「時間のむだだ」と呼ぶ者あり)

◆**中西議員** 先ほど特別委員会の委員長を有松さんと言われてましたけども、この中西が委員長に就任しておりますので、訂正させていただきます。(発言する者あり)

◆**森本議員** それでは、引き続いて質疑の方に移ります。

真ん中の列。

○**質問者C** こんなに大きな声出しとるのに。弁士交代。Cです。Cといいます。

3点。まず1点目、この日本設計に対する随意契約がいかにかに不当か。10社に電話をかけたけれども、議会事務局がですね、日本設計以外は返答がなかったと。普通、随契でやる場合でも、10社でいろいろあった場合は、この10社をはねて、また次の10社を電話をかけ直して指名し直して問うのが普通です。最初の10社だけで日本設計しか返答がなかったから日本設計にさせる、これは全く入札のやり方として不当だということをまず申し上げておきます。(拍手)

それから、日本設計がいかにかげんな会社であるか。日本設計が説明に来たときに、私は待合する部屋に行きまして、その説明に来た方に、この土どめの工法が連壁というふうな鳥取ではやったことのないような工法だが、なぜこういう工法を選択したのか。一般的には油圧で静的に圧入するやり方が一般的だと、それだと狭いところもできるし工期も早いし安く上がる、なぜ連壁というふうな鳥取ではやったことのないような工法を選択するのか、こんなものは裏の方の狭いところではできないですよと、これに対して返答ができませんでした、日本設計。

それから、竹内市長が副局長の、まだ広島におるときに、盛んに国交省はバリューエンジニアリングということを土建屋に求めました。バリューエンジニアリングは何かといいますと、同じ機能をいかにか安く上げるか、これがバリューエンジニアリングでございます。これは大変難しいシケンでしたが、これを国交省は一生懸命やったわけです。少なくとも竹内市長は、そういう旗振りをしたのであれば、バリューエンジニアリングに基づいて、いかに庁舎を安くするか、これをするべきであって、日本設計なんかに頼むのは、これは不当だと私は思います。

それから、2番目、まず議会の自己矛盾についてであります。第1案も第2案も議会が満場一致で可決した案件であります。満場一致で決めたにもかかわらず、23人の自分たちが負けたからといって、あたかも住民投票を白紙にするような、住民投票以降の23人の議員のいかにか品格のないやり方、前を見ますと、こっちの方は何かそういう方が多いですけども、特に房安議員や、きょうは来ておられませんけれども、島谷議員、桑田議員はその先鋒として議会の方で一生懸命やっておられました。こういうやり方は、私はまことに自己矛盾に満ちた、議員としての品格に欠けることと私は思います。（拍手）まず、住民投票を白紙に戻そうというのであれば、23人の自分たちが腹を切って、辞表を出して、それからこの住民投票は間違ってたと言うのが普通じゃないですか。23人が辞表を出せば、あとの6人、29人、辞表が集まれば解散になるわけですから、あとの6人ぐらい集まりますよ。まず23人の議員が耳をそろえて辞表を出すべきだと私は思います。それが自己否定をした議員のとるべき道だと私は思います。

第3点。住民投票を白紙に戻すには2つの道しかありません。1つは、20億が間違ってたというのであれば、20億に誘導された、このことによって住民投票が、その23人の方々、負けたというふうに解釈しておられるみたいですから、裁判に訴えて、この20億という要素が新築移転が負けた原因だということを裁判によって証明すべきです。また、もう一つのやり方は、選挙に打って出るべきです。先ほど私が言いましたように、23人の議員が辞表を出せば29人集まりますよ。そうしたら議会は解散です。3分の2以上の議員が当選すれば、新築移転賛成派が当選すれば、胸を張って住民投票を無効にして病院跡地に新築移転できるわけです。当然その道を選ぶべきだと私は思います。車に乗って一生懸命マイクを持って演説していたんですから、それぐらいの覚悟があつてしかるべきでしょう。房安さん、そうでしょう。

（「そうだ」と呼ぶ者あり）

**○質問者C** 議長の問題だ、議会の責任だときのうも市長は言っておられたみたいですけど、当然市長にも責任あります。しかし、本当にこの2年の混乱を招いたのは23人の議員ですよ。こ

れを責任をはっきりしていただきたい。(拍手) 返答は要りません。以上です。(拍手)

◆**森本議員** 特に御発言はございませんね。

(不規則発言)

◆**有松議員** 失礼をいたします。23人の一人であります。先ほど来から有松、有松と大変名前を公表していただきましてありがとうございます。地元の国府町の議員でございます。

先ほどCさんが23人の責任がどうなんだという御発言がございました。私自身も昨年の夏あたりからどうも20億8,000万というものは実現不可能かなという思いをした中で議会解散ということを念頭に置きながら行動しておりましたけれども、いろいろ熟慮を重ねた結果、私の結論としては、我々が今議会解散をしてこの庁舎問題がどう解決するのかということに私自身は今至っております。そういった意味では、任期中にきちんとこの方向を我々の責任で庁舎問題を解決すること、このことが皆さん方に議会の責任を果たすことだと私は今時点思っております。そういった意味では、今でも新築移転ということを感じておる議員の一人でありますけれども、私は自分自身の責任として皆さん方を裏切っておるというふうには思っておりません。逆に20億8,000万で提案をしていただいた議員さん方のことを我々はしっかりと正式に受けとめて、住民投票の後はこの中身を示してくださいねということを確認しながら住民投票に踏み切ったということで、大いに裏切られた気持ちでおる部分もございます。ただ、こういった部分を私は、先ほど来答弁をしていただいておりますけれども、12月で解散をされましたけれども、旧特別委員会の委員ではございませんでしたので、あくまでも私の主観ということでお許しをいただきたいと思っております。御案内のとおり、私は新しい特別委員会の委員の一人であります。そういった意味では執行部に一応議会はボールを投げたわけですから、執行部がきちんとした方向を出すことを検証する役目として私は役どころを果たしていきたい、そんなふうに思っておりますのでよろしく願いをいたします。以上です。

○**質問者C** いや、ちょっと私は今の答弁に対して合点がいきません。特別委員会～聞き取り不能～わけじゃありませんよ。あなたは本会議で手を挙げたんじゃないですか、～聞き取り不能～のときに～聞き取り不能～手を挙げたんじゃないですか。そのことを自己矛盾を感じないかと言ってるんですよ。

(不規則発言)

◆**有松議員** 感じておりません。

◆**森本議員** それでは、そのほか手の挙がっておりました方、真ん中の列。

○**質問者D** Dでございます。議員の皆様には、大方の方が日夜鳥取のために御努力いただいておりますことに対しまして厚くお礼申し上げたいと存じます。

先ほど来、審議がございしますが、12月議会で20億8,000万円の事業ができないという報告があったということでございしますが、そもそもこの20億8,000万円を提案されました、山本浩三さんという建築家の方が提案されたということでございしますが、鳥取市議会としてこの山本浩三さんとのような契約をして、どのような報告書を受けて、この5月20日の住民投票の2号案として



提案されたのかお伺いをいたしたいと思います。

次に、報告の中では2号案の条件では実現できないという報告があったということですが、その後、検証したということですが、あくまでも、建物がどうだとか免震がどうだとかいうことも大切だと思いますが、これからの鳥取市を見据えた防災だとか町づくりだとか、そういったことの報告も、何ら報告がありませんでした。そういう報告を当然すべきであり、当然審議する必要があったではないかというふうに思います。非常にこの特別委員会は寂しい報告であったと、このように思いますが、この2点についてお伺いしたいと思います。

◆**森本議員** じゃあ、上田議員、お願いします。

◆**上田議員** 今、Dさんの方から住民投票にかけた20億に対しての質問がございました。長い話になるかと思いますが、一たん市民の方から住民投票をとるという提案であったわけですが、これを議会として否決をしたという状況の中で、やはりこれだけ多くの市民が住民投票に対しての強い関心があるという思いを受けとめて、我々とすれば、議会とすれば、やはり議会提案で住民投票を行おうじゃないかという形で住民投票に向かったという経過がございます。その中で、当初は市民病院のところに移転か現在地でどうかという一つの考え方で、議会とすれば対案がないと、新築移転に対して対案がないという形で一たん否決をしたわけですが、新たに議会が住民投票にかけるときには対案を持って住民投票しようという一つの考え方の中で、一方は新築移転と、市民病院の方に新築移転という形になっておるわけですので、こちらの方の現在地での対案としてどうすべきかという議論がございました。その中で、議会として現本庁舎の耐震改修、一部増築という形で住民投票にかけようという形で、これはいろいろけんけんがくがく検討委員会の中でも議論した結果の中で、住民投票に比較検討をつけて、情報関連をつけて、位置の問題、それから床面積、耐震工法、駐車場、設計概算費、工期、財源等々を示して市民に住民投票を行ったということなんです。それで、このときは新築移転の方の74億何ぼ、約75億、それからこちらの方の現本庁舎の耐震改修の方も20億8,000万という形で、これはあくまで、1号案も2号案も概算で出した数字です。だからここを御理解いただきたいというふうに思います。そういった形で住民投票をかけたということ。

それともう一つは、防災の関係云々という話も出ておりました。住民投票にかけた一つの考え方とすれば、現本庁舎の耐震改修、とりあえず地震があっても壊れないような形での耐震をしていくと、それと現状維持を基本とすると、現状維持を基本としてやるという一つの考え方の中で20億というものを出示しておりますので、そこを御理解いただきたいというふうに思います。そういった形で住民投票をかけたということが事実でございますので、そうやって御答弁させていただきたいというふうに思います。

◆**森本議員** 重ねてお聞きになりますか。

○**質問者D** 先ほど御答弁をいただいたところですが、私の尋ねておることは若干違うようですので重ねてお伺いしたいと思いますけども、私が尋ねたのは、山本浩三さんの報告された20億8,000万は、鳥取市議会として、市議会と建築家、山本浩三さんがどういう契約をされたのか、

何月何日に契約をしてどういう報告書をいただいてどのようなお金を払ったかと、そこが知りたいわけです。ですから、どこからか知らんけども20億8,000万が出て、それを2号案にしたというようなことではおかしいじゃないかというふうに思うところです。

◆森本議員 じゃあ、上田議員、また。

◆上田議員 済みません。先ほど最初に申し上げましたように、対案を示さないけんという形で当時の議長の中西議長の方から相談を受けました。上田さんの方で何とか対案というものをつくってもらえんかという相談がございまして、私が山本さんと相談をしながら、こういった形で現本庁舎の耐震改修、一部増築にしたらどのくらいかかるかといういろんな相談をしながら一つの対案をつくっていただいたということなんです。これで山本さんにどういった契約をしてどのくらいのお金を払ってという一つの話がございました。これは1円も山本さんにはお支払いはしておりません。ただ、相談をして一つの対案をつくっていただいたという経過でございますので、このように答弁をさせていただきます。

◆森本議員 それでは、そのお隣の方。

○質問者 E Eといいます。よろしくをお願いします。

論点の中で1点だけちょっとお聞きしたくて手を挙げさせていただきました。先ほど専門委員会の説明の中にだけあったんですが、大災害時における対策室の、というときの、心配されるという話があって、その辺の部分、先ほど今質問があった、防災の考え方は現状維持でという話があって、その辺のことを思いながら私は手を挙げさせてもらいました。

先人とか先輩は、いろんな事故とか災害があると徳があると言うんです。人徳の徳があると。それは何かというと、教訓を残すと言われてます。教訓。私が思うのは、東北という大きな大災害を受けて、本当にテレビとか、今でもそうなんですが、目の当たりにして、市役所の果たす役割というのがいかに大事かというのは今回すごく痛切に感じました。そういうこともあって、本当にどうあるべきかと思って関心を持っております。その対策というか、教訓を生かす取り組みを、今回東北の震災を受けて、鳥取市の市庁舎という役割、機能、その辺の論点、議会の方、いろんな話、1号、2号と言われますが、その前段で、第1号案、第2号案、そここのところの市民の生活を守ってどうやってやっていくかという論点がどうやって整理したかと1点だけ聞かせていただきたくて手挙げましたんで、教訓をどうやって、東北の、いろんな先進地視察とかいろいろ行かれとるみたいですし、先生もいろいろ行かれる。そのところの教訓を今回市庁舎建てかえにどういうふうに生かそうと。現状維持じゃ困ると思うんです。今回新しいところがある、場所も。食べ物もいっぱいある。その辺の論点がどのように整理されてこの1号～聞き取り不能～本当に素朴な質問ですが、ひとつよろしくをお願いします。

(発言する者あり)

○質問者 E そうなんですか。

(発言する者あり)

◆森本議員 ただいまの質問に、どなたか。

**○質問者 F** 鳥取市のFです。目が見えんもんに一遍言わせてください。

**◆森本議員** ちょっと先に。Fさん、少しお待ちください。

**◆上田議員** 失礼します。防災という形で、今、東北の地震の関係を上げて、市庁舎のあるべき姿という形、ですから1号案でも、それから今回の現本庁舎耐震改修・一部増築にしても、地震が来ても大丈夫だという考え方の中で耐震対策をするというのが基本ですので、新しく建ったから大丈夫だとか、こちらで現本庁舎の耐震改修したからこちらが防災で地震が来たときに壊れてしまうというふうなことはありません。このことだけ申し上げておきたいというふうに思います。

**◆森本議員** お待たせしました。じゃあ……。

**○質問者 F** Fでございます。私は新聞も読めないし、あれですから、流れに逆らってると言われるかもしれませんが、私は一番思うのは、視覚障害者ですから、バリアフリーのことも非常に大事なんです。ばらばらに役所があるということは本当に、この車の不便な者にとっては、車に乗れない者にとっては困るわけですが、あっち行けこっち行けでは。そういったことも耐震とともに考えてもらいたかったし、それから今お聞きしていた、山本さんという名前も知らなかったんですけども、そこ契約もしてないし、お金も払ってない。それが何か手柄のように言われるけど、普通設計するときには建築費の何%というのを支払わん限りできないと思うんです。もちろん本設計じゃないからそれでよかったんだとおっしゃるけれども、それでやると結局いいかげんところで、まあまあ住民投票にこの値段でかけてしまおうやということになったんじゃないかと思うんですよ。それ違いますか。だから、私も建築をいろんなところで携わらせてもらって、設計士というのがいると、認識としてわかってるんですよ。だから、そんなことで議会が、だから、そんなふうな話を聞いて20億何ぼでしたもんだから、さて住民投票で決まったらこれで建つんだろうかと、特別委員会つくらんなんだろうかと、なっちまったんじゃないですか。その辺の責任問題、私流れ知らんけど、おかしいこと聞いてますか。どうぞ。

(発言する者あり)

**○質問者 F** 教えてください。今さらそういうような設計、値段を住民投票にかけるときに参考に出すということが間違いなんじゃないですか。

(発言する者あり)

**◆森本議員** じゃあ、上田議員。

**◆上田議員** Fさんから非常に貴重な御意見をいただきました。確かに今いろんな体の不自由な方、目の見えない方、体の不自由な方等々で、すべてバリアフリーというか、障がい者の方々、目の不自由な方々がどこでも自由に出入りというか行動ができるような、活動ができるような社会をつくらないけんということは重々議会としても承知をしております。ですから今回の耐震改修にしても、これから先、市庁舎整備を進めていく上でも、十分その点については配慮して、バリアフリーの点に十分配慮して整備をしていかないけんということは、これは十分理解をして、議会としてもすべての議員が理解を、承知をしておるということを上げておきたいというふ

うに思います。

それで、山本さんの関係で、山本さんに金を出してないからそれが手柄だというふうな受けとめ方はしていません。最初に申し上げましたように、住民投票にかける際に、やはり市民にどういった形で住民投票、判断をしていただくかという一つの考え方の中で、その概略というか概算での考え方を示したものであって……。

**○質問者 F** その概算の示し方が甘かったから調査特別委員会をつくらねばならなかったんですよ。ここであれは間違っていたと言っていたらいいんですけど。

**◆上田議員** 間違っておったという……

(発言する者あり)

**◆上田議員** 間違っていないです、それは。それは……

(発言する者あり)

**◆森本議員** Fさん、恐れ入ります、指名してからの御発言ということで、進行上、御協力お願いします。

上田議員、続いてお願いします。

**◆上田議員** 住民投票にかけるのにどの程度、どういった形で住民投票にかけたらいいかという形で議会で議論いたしました。それで、先ほど申し上げましたように、住民投票にかけるのに関連情報表という形で1号案、2号案を比較検討できるような形でお示しをして市民に判断をしていただく。これはその住民投票の関連情報表をつくるまでがいろいろ議論ありましたが、関連情報を示すときに、決まったときに、住民投票、これでかけようといったときにはもう36名、議員が、じゃあこれで行こうという形で決定をしたものであって、金を払わんでもよかったものの、これが決まってから具体的に基本設計、実施設計という形で計画していくというのが一つの物事を進める順序というかスケジュールですので、この住民投票かける段階では……

(「要領よく説明してください」と呼ぶ者あり)

**◆上田議員** そういった形で住民投票かけたということでございます。

**○質問者 F** でも、その設計費～聞き取り不能～ならなかったということ、反省の言葉を言っていたらいいんですけど。

(不規則発言)

**○質問者 F** 違うんですよ。だから、私言ったでしょう、日本設計～聞き取り不能～全然意味がないんです。

**◆森本議員** 次の御発言の方、左側の中ほどの方、お願いします。

**○質問者 G** Gといいます。

さっきの続きをちょっと言わせてもらって質問に入りたいと思いますが、12月までに行われた特別委員会、ああいうていたらもうこれからはやめていただきたいと思います。あんなていたらくのことをやるから議員が要らんということになるわけですし、ああいうことは今後一切やめていただきたいと思います。

質問に入らせていただきますが、要するに20億8,000万というものが、議会皆さんの総意でもって、総意でもってというか、多数決でもって否決されたわけですね。20億8,000万ではできんと、31億かかるんだと、その他、経費含めれば43億かかるんだということをあなた方委員の皆さんが決められたわけです。要するに選挙のときに20億8,000万でできると言った、あれはうそだったわけですね。市民をだまして投票させた、そして住民投票を可決したということですので、住民投票そのものをまず無効にすべきじゃないですか。（拍手）

それから、その責任は、議員の皆さん、どうしてとられるんですか。だれもとってないじゃないですか。議員としての責任のとり方、これを教えていただきたい。私が考えますのは、まず20億8,000万でできるといって推進した10数名の議員さん、まず最初に辞任されて責任をとられるべきだと思います。それから議会としても進めたわけですから、結果として議会として推進したわけですので、責任のとり方としては、解散をして新しい議員によって新しくスタートするというのが本当の姿じゃないでしょうか。（拍手）

どうしてもできんということであれば、さっきも説明がありました。31億の説明があったわけですけども、こんなことをしたって市民のサービスのためには何にもなりません。5つの庁舎にはまだ分散されたまんま。それから駐車場が今150台とめれるでしょう、現在。これが半地下をつくってやったら117台になると。33台ですか、何で減るんですか。今でも足らんと言っとるんですよ、駐車場が。これは何で大きな金かけて駐車台数を減らすんですか。それと、さっきも言ったように、5つの庁舎に分散されておって全く市民のサービスのために何にもならないということ。それからもう一つは、耐震改修をしようとしてやっておる今の古い建物、いずれは、20年後か30年後になるか知りませんが、建てかえないけんじゃないですか、また。このときはもう全額負担ですよ。50億かかるのか60億かかるのか知りませんが。合併特例債というのはいないですよ、そのときは。それがいいんですか。それよりも、せつかくある旧市立病院跡地にきちっとした市庁舎をつくる、市民サービスのためにも防災の観点からも、これしかないじゃないですか。

それから、議員の皆さんに考えてほしいのは、将来の鳥取像というものを考えてほしい。鳥取が将来発展するためにはどういう町づくりすればいいのか。議員のこれは責務じゃないですか。ぜひこれを考えていただいて町づくりをしていただきたい。そのためには鳥取市、今、市長は2核2軸という方向で進んでますけども、一つの核として、やはり駅前のシンボルとして、あそこに、旧病院跡地に庁舎を建てて一つの軸にすると、核にすると、もう一つは久松山の方になると、こういう町づくりを考えるのが議員の責務だというふうに思います。（拍手）ただ、その辺も本当に議員の皆さん、よく考えて、何でも反対、とにかく反対、何でも反対すりゃええんだと、行政の言うことは、市長の言うことは何でも反対でいいんだというような考えでは鳥取市の発展はありやしませんわ。（拍手）ぜひよろしくお願いします。

（「反論させてもらっていいですか」と呼ぶ者あり）

◆森本議員 上田議員。

◆上田議員 きょうここにおいでの方の皆さんの中でも、新築移転、それから現在地の耐震改修、

そういった双方の考え方の市民が来ていらっしゃるということも十分承知をしております。ですから、いろんな意見が出るのもわかりますけれども、一応、先ほどのGさんの意見等々は、やはり住民投票をかける前にいろいろと議論をした経過であるということの一つ御理解していただきたいというふうに思います。そういった考え方の中で住民投票を実施したということで、その結果を、やはりそれが議会としては民意の一つのあらわれじゃないかという思いがしております。ですから、そういったことを踏まえながら、これから先、最初にも12月で委員長報告があったように、こういったことを踏まえながら、委員長報告を踏まえながら、よりよい市庁舎整備をどうあるべきかという形で議論していくのがこれからの特別委員会の議論になろうかというふうに思います。きょうそれぞれのまた市民からいろんな意見が出たわけですので、きょうこうして出た意見をまた参考にしながら今後の特別委員会で十分議論させていただきたいなというふうに申し上げておきたいというふうに思います。

◆**森本議員** 伊藤議員、重ねてありますか。

◆**伊藤議員** 失礼いたします。本当に市民の皆さんの議会に対する怒りというものをひしひしと感じています。先ほどの御意見の中で反対した、新築移転の方ですね、新築移転の方に反対をした議員に対して何でも反対というような御指摘がございました。もっと鳥取市の将来のことを考えてという御意見でした。決して私たちは何も考えずに反対をしたわけではありません。やはり考えた上でのことです。

そもそもこの市庁舎の新築移転の話が出てきたときに、鳥取市はいろんなところで説明をされました。そして、それを聞いた市民から、勝手に自分たちの大事なこと決めんといてほしいと、そういった声が上がりました。何にも知らされていないのに何で勝手にそういうことを決めるんだと、そういった声があちこちから上がってきたわけです。その中で、新築移転に賛成されてる方も、この進め方はおかしいんじゃないか、そう思われた方、おられました。だから私は、その後、市民の人たちが署名活動をやられて住民投票で問うてほしいと、それはまず新築移転に賛成なのか反対なのか、それで賛否を問うてほしいという、そういった運動が起きたわけですね。その5万人、署名が集まったわけですが、それに賛同された市民の方は決して皆さんが耐震改修、現在地でやってほしいと言った方ばかりではありませんでした。新築移転でもいいと思ってた人も、今のやり方はおかしい、そういった意思表示だったわけですね。

私いろいろこの間、この会場で御意見聞かせていただいて、先ほどちょっと言いそびれたんですが、佐治のDさんの方から特別委員会の報告が寂しいものだと、そういった御指摘がございました。じゃあなぜこの特別委員会の報告が寂しいと感じられるものになったのか。それはこの特別委員会が本来やるべきことをやってないからだとは思いますが。議会はチェック機関です。チェック機関であり、そのチェックをしていく中で市民の皆さんの声を吸い上げて、それを市政に反映させていく、それが議会の役割です。けれども、この間の議会のやり方を見ると、まあいろいろそこで議論はその都度されてきてますけれども、本当にやってはいけないことをやってしまったからこういう結果を招いたのではないかと、この説明会の場では個人的な意見は言うこと

はできないというふうになってましたけど、済みません、やはり説明会に来られてる方が本当に私たち議員一人一人が考えてることをしっかりと聞いていただくことが大事だと思いましたので、あえて言わせていただきました。（拍手）

◆森本議員 真ん中、女性の方。

○質問者H 伊藤さん、どうもありがとうございます。私も市議会の特別委員会なんかを、毎回じゃないですけど、時々見させていただきまして、一体何ということだろうということ、それで、ほかの人は知らないけど、伊藤さんの言ってることが一番まともに聞いたんです。先ほどからも伊藤さん言ってますけれども、特別委員会そのものをつくって、そこで議論するということはとてもおかしいということも思ってます。ほかの市民も思ってます。それで、こういうことは先ほどから伊藤さん何回も言ってますけれども、住民投票が上がりました。それで、新しい方じゃなくて今のところをちゃんとやっていくということを市民が選んだのに、それを市議会で何だかんだということはもう言うべきことではなくて、チェック機能じゃないですから、それをチェックするのはもう市の方の、役所の、執行部が粛々と進めていけばいいことなのに、それをああでもないこうでもない、20億だの何だのと、100億が70幾つになって、今度60何億になると、そういうものにとらわれたりしてるということ自体が、議会として、市議会としての体をなしてないと思います。そういうのは市議会とは思えません。

ですから、さっき質問した方が、住民投票もさらにすると言いましたけど、それはもうできないことです。あとは、市議会もそしたらやめろと言うんですけど、市議会をそういう、もう何回もいろんな人が言ってますけれども、市議会としての討論の場でも何でもなくて、ここにもありますけど、市政を監視するための市議会であって、そこで討論することなので、そういうことをやってほしいのに、何だか市民のやったことが間違ってるような、それからお金がどうのこうのというのは市議会でやるべきことではないと思います。そういうことを延々とやってるといことは、市議会として全然仕事を果たしてないので、皆さんやめていただきたいと思います。そしてまた新しい人でやっていただきたいと思います。ぐちゃぐちゃしたのが残ってるもまたそこでああでもないこうでもない始まりそうですので、本当に解散していただいて、賛成派も反対派もないです、もうぐちゃぐちゃしてますのでやめていただきたいです。一番の元凶が市長なんです。市長が……

（発言する者あり）

○質問者H そこまで言うと……。

◆森本議員 予定しております時間も大分近づいてきております。最初に手を挙げられた方の中で、まだ御発言、私の方が御指名をさせていただいてない方、及び当初説明をいたしました内容の具体の部分について、説明の内容がよくわからなかったということの質問、この2つに絞ってこの後改めて挙手をお願いして進めていきたいと思いますが、お一方、そのほかはよろしゅうございましょうか。

じゃあ最初に、こちら、私の右手の列の側の方から。

**○質問者 I** Iといたします。

私は一市民として純粋な意見で、さっきも言われましたけれども、やはり住民投票は市民の意思なわけですから、そこに立ち返って、20億だの専門委員会だの、そういうことは、もうそういう議論はやめて、もう一回、私たちは新築移転を選んだんです。だからそこに立ち返ってもう一度進めていただきたいと思います。以上です。

**◆森本議員** それでは……。

**○質問者 J** Jといたします。

いろいろ御熱心な議論、御意見、いろいろ出ましたので、私の思ってることもその中に幾つもあります。先日、おとついでですか、日本海新聞に投書しとられる青木さんという方の文章の一部をちょっとここで、皆さん読んでおられると思いますけども、読ませていただきますが、私は住民投票案にだまされた気がする。金額が余りにも違い過ぎる。継ぎはぎだらけの市庁舎に新築に匹敵する税金を投入するのは大反対である。云々ありますが、最後の方に、市民を混乱させた関係者の責任は重いのは当然だが、うそを書いてあった住民投票は無効であると言いたいというふうに締めくくっておられます。

先ほど、常任委員会の上田市議さんでしょうか、住民投票に出した数字を山本設計事務所のされた数字を使ったというふうにおっしゃいましたが、私は一番のポイントはそこじゃないかと思うんです。議会で住民投票にかけようというふうな大きな影響のあることをする前に、そのようなアバウトなような、ただあれが言われたからというふうなことで提案されたことに、こういうことが起きてきたもどかと思うんです。しっかりと20億という数字が本当かどうか、例えば国交省なりの建築設計事務所というのがあります。そこいらの見識者の意見とかいろんな学者の意見とか、そういうことを含めて、広く将来の鳥取市の子孫に残す施設としてどうあったらいいかというふうなことを議論をある程度された上でそういうふうに踏み切られるのがよかつたんじゃないかと思います。その責任をとにかくというのはこの新聞には書いてありますけども、それはこれから市議会の方で御判断、御決断されるような事柄ではないかと思います。済みません、以上のようなことです。（拍手）

**◆森本議員** じゃあ、上田議員。

**◆上田議員** 今、山本さんですか、山本さんの20億がどうのこうのという、そういった数字を、いやいや、これで、この数字は、最初にもちょっと申し上げましたが、実勢単価で出しておるといふ数字は最初から言ってますので、そこは誤解のないようにしてください。全くでたらめの数字というふうな形で受けとめていただいたらちょっとまた違いますので、その辺、誤解のないように受けとめて、理解をしてやっていただきたいと思いますというふうに思います。

**◆森本議員** そのほか手を挙げていただいとって私の方がまだ御指名をさせていただいてない方。

1、2、3、お三方でしょうか。それじゃあ今手を挙げていただきました方、右側の列、前から3列目、一番後ろの列の方、それから向こう、左側の、このお三方の御発言をもって打ち切り



ということにさせていただきたいと思います。

**○質問者K** 現在までの経緯というものを判断しますと、中には気がついておられる方もあろうかと思いますが。

**◆森本議員** 済みません、お名前の方をお願いします。

**○質問者K** 私はKといいます。

気がついておられる方もあろうかと思いますが、一連の流れ、現在までの経緯というものを判断しますと、これは市長のやらせなんですよ、率直に言って。住民投票で20億8,000万という数字が出てきました。これは山本さんの実績に基づいて、鳥取県庁ないし既存の鳥取市の設計書というものを判断して設計しますということだったです。これは正しいと思います。しかしながら、市役所のそばには薬研堀がありまして、深いところでは30メートル、浅いところでは20メートル、ボーリングをしていないんです。ですから、本当に庁舎を建てようと思えばボーリングをした上で実施設計というものをする必要のあるんだというふうな気持ちで私は話をしたことがあります。そういうようなことで20億8,000万というものがひとり歩きしておりますけど、これをそういうような形でしますと、1割ないし2割というものは増額をしなければ、本体工事においても変えなければならないというような意味合いがあると思っております。そのようなことで市民の皆さんに説明すれば御理解をいただけるものだと私は思っております。

それと、日本設計につきましては、業者の選任というときに、特別委員会の席上であります、あのときには約10社ぐらいの会社が出ておりました。その中でですね日本設計がそういう指名を受けたということにつきまして、あえて私は、こういうことを言うところとちょっと変なことですけど、竹内市長は建設省において、市長になる前は広島の中国地方建設局の次長をしておりました。建設行政には～聞き取り不能～隅の隅、裏の裏まで知っているんですよ。ですから、自分自身の方式、やり方に基づいて現在の実態があるもんだと私は思っております。もしこれが本当の正しい～聞き取り不能～あるのであれば、自分自身が出てきてこうなんだというふうな説明をすべきであって、結局自分が出ずにおいて、議会の皆さん方、例えば特別委員会が運営されて現在そういうことになったんですけど、会議の最中で、これは特別委員会の逸脱した方式だと、私はそう思った事柄があります。そういうようなことで、正しい意味の議会運営なり特別委員会の運営というものが私はなされていないと判断をしております。

ですから、いろいろ言われますけど、現在まであった経緯といいますものは、そのようなきちっと基本的な判断や考え方がなされて運用されていなかったということが大きな問題点だと思っております。逆に、変なことをこういうところで申し上げることはいけませんけど、議員さんの皆さん方に変な言い方をする人間がおります。そういうようなことを、本当に4万7,000人の市民、その人を冒涇するようなことがあってはならないと思いますし、もし4万7,000幾らというものが、市長が選挙のときは4万7,000以下の票で当選しとるんですよ。私は率直に言えば……。

**◆森本議員** K様、時間が押しておりますので次の方に御発言を回したいと思います。

**○質問者K** 本当に市民の意見というものを尊重して改めてやるべきじゃないだろうか、私

はそう思っております。

**○質問者 L** Lといます。

上田議員にお聞きしたいんですけども、先ほど20億8,000万は実勢価格と新営予算単価の違いでいいかげんな数字ではないとおっしゃいました。じゃあ設計監理費8,000万はどういう数字なのでしょう。これは山本さんではなくて上田議員がだれかから聞いた4%という数字で出したそうです。間違いはないですね。それは住民投票後の特別委員会の中で、これは8,000万ではできない、高くなると御自身も認められました。そのときに住民投票前の検討会の中でも8,000万はできないというふうなことをさんざん指摘されてることは議事録見ればわかります。そのとき8,000万と言って押し切られましたね。

山本さん、参考人招致とか回答で出しておられますけども、設計監理費は告示15号で出すのが適正だと言われてます。これは8,000万ではできません。日本設計の検証では2億2,000万になってます、設計監理費。概算だとしても余りにも違い過ぎる数字になってます。上田さんも高くなるというのは認められてますよね。じゃあ高くなるというのはいつわかったことでしょうか。住民投票前にわかっていたとしたら市民だましたことになりまして、住民投票後までわからなかったということでしたら、指摘されてたことを確認しなかった。山本さんに聞けばすぐわかりますよね、違うということは。その確認を怠ったか、あるいは意図的に高くなることを結果を避けた、そういうふうに思いますけど、後で知ったのか前にわかっていたのか、どちらだったでしょうということがまずお聞きしたいのと、なぜ山本さんではなくて素人の上田議員がこの数字を出されたのかということをお聞きしたいです。

それと、ちょっと私の考えで言いますと、住民投票で示したのは20億と設計監理費8,000万という数字でした。その8,000万、大幅に違いますし、上田議員も違うとすぐに認められてますけども、いいかげんな数字だったわけです、概算にしても。あと議会も実現不可能であったということも認めた2号案ですね、そういう案で住民投票させられたわけです、市民は。ということは、間違った情報で住民投票をさせられたわけですから、この結果を尊重して進めなくてもいいと思います。市民にとって、防災とかコスト面とか、先ほど言われましたけども、バリアフリー、これらの問題、いろいろ検証によって出てきています。検証しなかったらわからなかったことです。検証したからこそよかったです。明らかになりました。こういうことは市民じゃわからないです、どうしたらいいか。有識者や専門家、あと市民の声ですね、こういうものを聞いて、声を取り入れて、一から検討すべきだと思います。もうわからない情報でやった住民投票は尊重しなくてもいいと思います。

(発言する者あり)

**○質問者 L** そういうことです。ですからちょっと上田議員、この設計監理費について教えてください。

**◆森本議員** 上田議員、設計監理費の部分について。

**◆上田議員** 設計監理費、確かに8,000万という数字は、僕は山本さんにも相談せずに私自身が

出した数字だというふうに思います。後で告示15号の関係でできなかったということは、8,000万ではできなかったということは後でわかりました。最初からわかっておって金額をふやさないために8,000万という数字にしたというわけではないということをおわびを申し上げたいというふうに思います。

この8,000万の示した根拠というのは、比較検討をずっとやっておりました。もういよいよぎりぎりの夜遅くまでなって議論した中で、じゃあ設計監理費はどのくらいかかるんだという一つの意見がございました。その中で私が示したこの8,000万というのは、1号案が74億8,000万という工事費が出ておりました。これが設計監理費が2億7,000万という形になっておりました。これがざっと4%になる関係で、この数字を使って20億に対する4%という形で8,000万という形で設計監理費を示させていただいたというのが事実です。ですから、確かに後で間違っておったということで、このことについては、山本さんは関係なくして私が示した数字であって、大変このことについて申しわけなかったということは特別委員会でも申し上げましたし、今回でも同じような形で申し上げさせていただきたいというふうに思います。ですから、金額を少なくするために8,000万という数字にしたということだけではないということだけを申し上げて、先ほど申し上げまして、概算工事費の4%程度で設計監理費だという一つの目安で私が8,000万という数字を示したという経過であるということをお願いさせていただきたいというふうに思います。

◆**森本議員** それでは、最後に手を挙げられた方。

(発言する者あり)

Cさん、指名してない方の御発言は……

(発言する者あり)

◆**上田議員** 済みません、それでさっきCさんから出ておりましたけど、一応僕は8,000万という数字を出して、それで20億8,000万という数字で住民投票にかけようと言ったのは全議員が賛成をして出したという経過、そういうことだけ。

(不規則発言)

◆**森本議員** 2列目の女性の方。

○**質問者M** 済みません、いいですか、何かすごく難しい話になってきて。済みません、Mといます。私は……。

◆**森本議員** お名前を。

○**質問者M** Mといます。

耐震改修という、現在地での耐震改修というのと新築移転という、この2点で私は住民投票を行われたというふうに理解しております。20億8,000万というのは、さっき上田さんがおっしゃってますように、対案として出さざるを得なかった、そういうものを出した方がわかりやすいんじゃないかということで、山本浩三さんの御助力でそういうふうな数字が出たということだと思います。

それで、私、結局鳥取市がもう分断されるほど決まらなくなったから住民投票をかけて市民が

決めようという、そういうふうに行われた住民投票だと思っております、最初からそういう悪意のあるものではなかったと思うのですが、そのときに耐震改修か新築移転かということで住民投票を行われて、それが一応鳥取市の決定になるというふうに思っておりましたので、その後で検証した結果20億8,000万、間違いじゃないかという議論がここで起こってくるのが本当に理解できません。（拍手）何のための住民投票だったのか。これは全国的にも大変注目されて、私は鳥取がこれで変わるかなというふうに期待をしたんですけども、きょうここでいろんな御意見を伺ってましたら、何かやはり昔ながらの鳥取市が戻ってきてるような、とても残念な思いがしております。

さっき伊藤さんが説明されましたとおりで、住民投票を提案した議会の責任として、住民投票の結果を尊重し、2号案の構想を基本的な考え方に極力近い形で条件を一部変更し、実現可能な、そういう工事がこれから行われるというふうに私たちは理解しております。（拍手）それでもこの場に及んである議員さんが、いや、自分は新築移転だというふうにまたここでおっしゃることが、私はちょっと一市民として今回のこの説明会に大変不信を覚えます。以上です。（拍手）

◆**森本議員** 非常にたくさんの御発言をちょうだいいたしました。まだまだ御発言をと思っておられる方もあろうかと思いますが、予定しております時間を過ぎました。本日この壇上におります議員は第1部、第2部で説明しました資料については事前の共通認識として持っております。議員がじげの声をちゃんと聞いとらんというおしかりの意見もちょうだいしたところでございます。これ以降、わからないところの部分、それから皆さんがこうあるべきだと思われる御意見につきましては、この前に顔見知りの議員なりお近くにお住まいの議員がおられましたらそちらの方にいつでもお聞きいただければと思うところでありますし、議会全体に対する部分としては、議会事務局の方、いつでも各議員と連絡がとれるようにいたしておりますので、そういう場を通してこれからもぜひ御意見をちょうだいしたいというふうに思うところでございます。

それでは、以上をもちまして本日の市民説明会を閉会とさせていただきます。どうも長時間にわたりましてありがとうございました。（拍手）